

阿南市の社寺建築

社寺建築班（郷土建築研究会）

黒崎 仁資^{1*} 橋本 美保² 坂口 敏司³ 酒巻 暢代⁴ 中野 真弘⁵ 宮田 育典⁴
森兼 三郎⁶

要旨：神社は大半が流造であり，春日造の本殿も4社見られた。那賀川流域に多く見られる四方八方に手先を延ばした組物が神社本殿7社、寺院1カ所で確認できた。また，農村舞台も数多く残っていた。寺院は市街地を中心に比較的新しい建物が多く，お堂は3カ所が閉鎖型であった。

キーワード：流造，春日造，那賀川流域，四方八方の組物，農村舞台

1. はじめに

阿南市は，徳島県の東部，那賀川下流に位置し，北は小松島市，勝浦町，南は美波町に接し，西是那賀町，東は紀伊水道に面して長い海岸線と多くの島々を有している。平成18年に羽ノ浦町と那賀川町を編入し現在の阿南市となっている。

私たち社寺建築班は，平成25年8月2日から延8日間阿南市に入り，社寺建築を建築学的見地から調査した。神社は71社，寺院は57カ寺，お堂・お庵は3カ所，農村舞台は25カ所を調査し，案内図（後掲の図6）を作成し，それぞれの建築年代や構造，建築様式などを一覧表（表1・2）にまとめた。そのうち神社5社については詳細調査を行い，実測図を作成した。建築年代については，書籍や棟札から確認できるもの以外は，建築様式から推察した。なお，今回は調査対象が多く時間的な制約から，神社については旧社格で村社以上を中心に調査し，平成6年に調査済みの那賀川町は対象から外した。

また，神社2社にあった30枚の棟札を調査し，その寸法，年代，大工名等の内容を記録し，一覧表（表3）にまとめた。

2. 阿南市の社寺建築概要

1) 神社建築の概要

今回の調査において，棟札により建築年代が確認できたものは水井の蛭子神社で，現在の本殿は明治5年（1872）の建立である。その他の神社も様式から推察する限り，江戸後期から明治期にかけて建立されたものであると考えられる。

本殿の建築様式は，新野の轟神社本殿（図1）他3社が春日造で，その他は見世棚造の小社殿を除くと，すべて流造であった。春日造とは春日大社本殿の建築様式で，切妻，妻入の本殿正面のみに庇を付けた建物である。また，流造とは切妻，平入の本殿正面の屋根を伸ばして向拝としたもので，県下において



図1 春日造の轟神社本殿（新野）

1 黒崎建設 2 遊木民 3 坂口建築設計室 4 宮田建築設計工房 5 真建築都市研究室 6 A+U森兼設計室
* 772-0003 鳴門市撫養町南浜字権現28-1 hkuro@lime.ocn.ne.jp

も圧倒的に多い様式で、全国的に最も広く分布した造りである。規模は柱間はしらまの数で表し、加茂の八幡神社本殿（図2）他2社が三間社さんげんしゃで最も大きく、長生の八幡神社本殿他2社が二間社にげんしゃ、その他はすべて一間社いつげんしゃであった。

阿南市の神社建築の特徴として、軒裏の手先を四方八方に出す組物がある。軒を深くするために、柱頭部の大斗だいとから肘木ひじきを出して丸桁がぎょうを持ち出す組物は、柱位置から十文字方向と外側45°方向に手先を出すのが一般的だが、阿南市の神社建築では手先を内側45°方向へも出すことで、四方八方に手先を出したような、一層賑やかな軒裏組物を持つものが見られる。福井の金刀比羅神社本殿をはじめ、7社の本殿と寺院1カ所でこの組物が見られた。

これまでの調査でこのような組物をもつものは、阿南市をはじめ旧木沢村、旧相生町、旧鷺敷町（現在的那賀町）や旧日和佐町（現在の美波町）など那賀川流域を中心に広く分布していることがわかってきた。これは、江戸時代後期から明治にかけてこの地域の特徴的な大工技術が受け継がれながら広まっていったものと考えられる（図3）。



図2 三間社の八幡神社本殿（加茂）



図3 四方八方の組物 金刀比羅神社（福井）

2) 寺院建築の概要

寺院は58カ寺を調査したが、比較的新しい寺院が多く、特に市街地においてはほとんどの寺院が昭和以降に建て替えられていた。

寺院で建築年代が最も古かったのは、浄土寺の観音堂（図4）で『徳島県の近世社寺建築』に享保14年（1729）に建てられたと紹介されている。また、阿南市には四国霊場第21番札所の太龍寺と第22番札所の平等寺があり、太龍寺は山頂付近に立つ山岳寺院で本堂、仁王門、多宝塔など多数の建物が伽藍がらんを形成している。多宝塔は本堂よりも一段上がった高台に位置し、全体的に大柄な三間多宝塔である。文久元年（1861）の建立と『徳島県の近世社寺建築』に紹介されている。平等寺は新野の山麓に位置し、境内奥の高台に位置する本堂は大型の三間堂で、屋根は入母屋造いりもやぶくりで鍔葺きしころとしている。また、羽ノ浦の拳正寺の弁財天堂（図5）は小規模な一間社春日造であるが、軒裏の組物は三手先で四方八方に延びている。

お堂は3カ所を調査した。形式はすべて閉鎖型で、新野の薬師堂は小規模な宝形造ほうぎょうづくりのお堂であるが、組物や中備彫刻なかぞなえに当時の彩色の痕跡が伺えた。



図4 浄土寺 観音堂



図5 拳正寺 弁財天堂

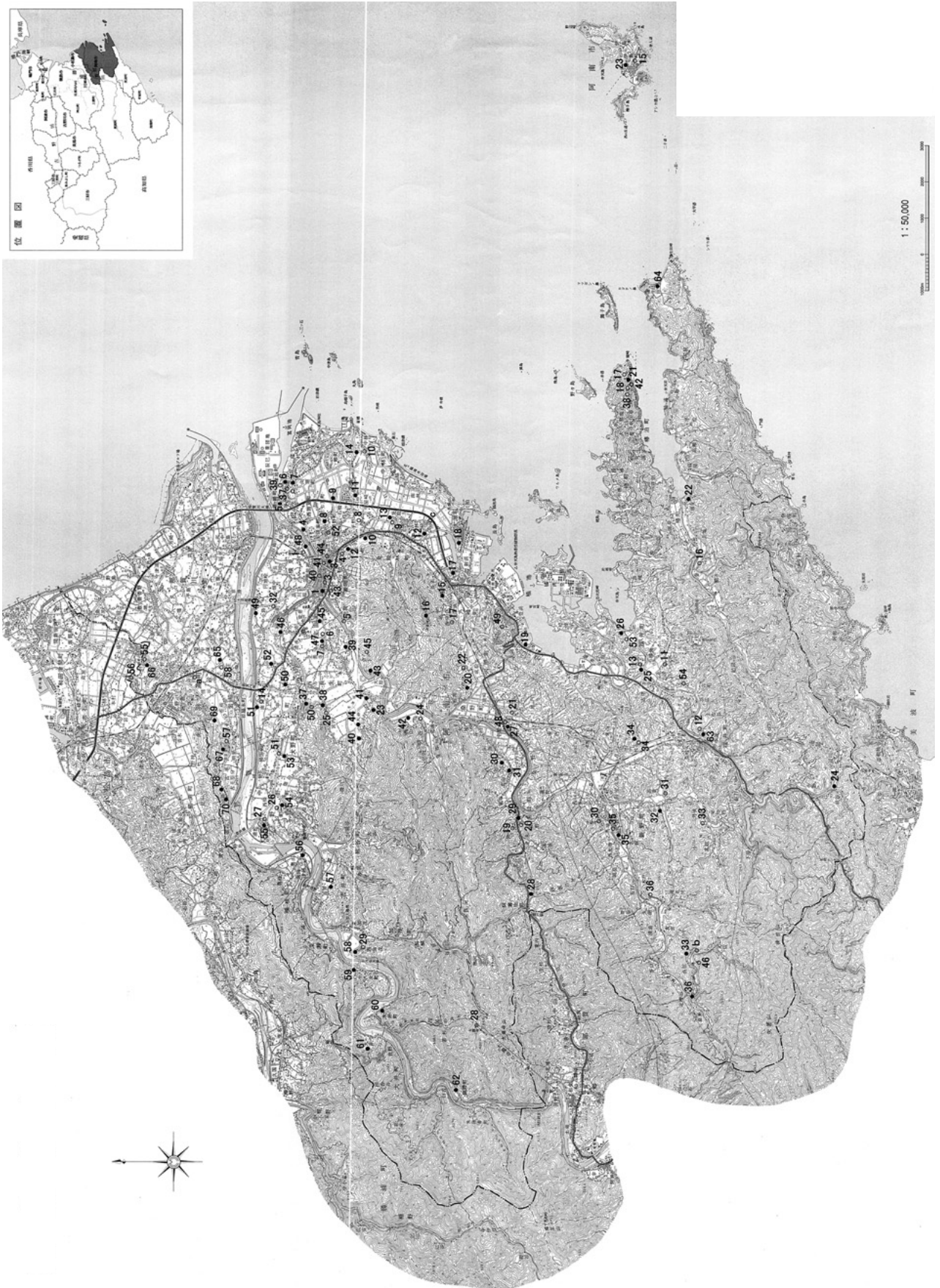


図6 社寺建築案内図 (●神社 ○寺院・お堂)

表1 神社建築調査一覧表

No.	神社名	鎮座地	創建	祭神	旧社格	鳥居様式(材料)
1	西宮神社	阿南市富岡町西仲町361-1		事代主命	旧村社	明神・大正4年(花崗岩)
2	八幡神社	阿南市富岡町滝ノ下29		誉田別命 足仲彦命 大鷦鷯命	旧郷社	注連縄・大正13年(花崗岩) 明神・昭和25年(花崗岩)
3	秋葉神社 あきば	阿南市富岡町ノ町63-1		迎俱土神	旧村社	明神・平成元年(花崗岩)
4	天満神社 てんま	阿南市領家町野神342		菅原道真公	旧村社	明神・大正11年(花崗岩)
5	蛭子神社	阿南市原ヶ先町居屋敷128		事代主命 (相殿)上筒男命 大鷦鷯命 菅原道真公 大己貴命	旧村社	明神・昭和29年(花崗岩)
6	蛭子神社	阿南市黒津地町戒野4		事代主命	旧村社	明神・平成元年(花崗岩)
7	八幡神社	阿南市除町新ばり221		誉田別命 (相殿)倉稲魂命	旧村社	明神・不明(花崗岩) 明神・不明(花崗岩) 注連縄・明治42年(花崗岩)
8	八幡神社	阿南市日開野町字宮原78		誉田別命	旧村社	明神・明治39年(花崗岩)
9	皇子神社	阿南市日開野町王子728-1		大己貴命	旧村社	明神・平成11年(花崗岩)
10	天神社	阿南市学原町上水田17		菅原道真公	旧村社	明神・明治44年(花崗岩)
11	落雷神社 おちらい	阿南市才見町山地20		別雷命 (相殿)素戔嗚命 軻遇突知命	旧村社	明神・昭和12年(花崗岩)
12	正八幡神社 しょうはちまん	阿南市見能林町林崎140		誉田別命	旧村社	注連縄・昭和5年(花崗岩) 明神・明治40年(花崗岩)
13	八幡神社	阿南市見能林町東浦51		誉田別命 (相殿)須佐之男命	旧村社	注連縄・昭和51年(花崗岩) 明神・昭和8年(花崗岩) 明神・昭和4年(花崗岩)
14	稲荷神社	阿南市中林町林崎56-2		稲倉魂命	旧村社	明神・万延元年(花崗岩)
15	八大神社 はちだい	阿南市津乃峰町東分196		津津彦神	旧村社	明神・不明(花崗岩)
16	津峯神社	阿南市津乃峰町東分343			旧郷社	明神・不明(花崗岩) 明神・昭和42年(花崗岩) 注連縄・昭和42年(花崗岩)
17	塩籠神社 しおがま	阿南市津乃峰町長浜420-1		味租高彦根神	旧村社	注連縄・明治42年(花崗岩) 明神・平成8年(花崗岩)
18	諏訪神社	阿南市大瀧町62		建御名方神	旧村社	明神・大正11年(花崗岩) 明神・弘化3年(花崗岩)
19	海正八幡神社 かいしょうはちまん	阿南市橋町大浦138		誉田別命	旧村社	明神・大正8年(花崗岩) 明神・不明(花崗岩)
20	八坂神社	阿南市内原町中分120-1		素戔嗚命	旧村社	明神・昭和6年(花崗岩) 注連縄・昭和6年(花崗岩) 明神・昭和10年(花崗岩)
21	佐田神社 さた	阿南市椿泊町東85		猿田彦命 海津見命 佐田九郎兵衛	旧村社	明神・元文5年(花崗岩) 明神・昭和10年(花崗岩)
22	八幡神社	阿南市椿町浜1			旧村社	明神・嘉永5年(花崗岩)
23	當所神社 とうしょ	阿南市伊島町瀬戸18		津津那岐彦彦命 津津甲斐邊羅命 速佐加留命	旧村社	疑似両部・昭和6年(花崗岩)
24	八幡神社	阿南市福井町開谷36		誉田別命(応神天皇)	旧村社	明神・昭和8年(花崗岩)
25	大宮八幡神社	阿南市福井町大宮100		誉田別命	旧郷社	明神・平成10年(花崗岩) 明神・平成20年(花崗岩)
26	住吉神社	阿南市福井町浜田162		上筒男命 中筒男命 底筒男命	旧無格社	明神・昭和50年(花崗岩)
27	天神社	阿南市桑野町島居前7		菅原道真公	旧郷社	明神・昭和21年(花崗岩) 注連縄・昭和12年(花崗岩) 明神・享保17年(花崗岩)
28	八幡神社	阿南市阿瀬比町前田9		息長垂比売神	旧村社	明神・大正14年(花崗岩)
29	辨神社 さかき	阿南市山口町森園118		猿田彦命	旧村社	明神・大正15年(花崗岩)
30	日吉神社	阿南市山口町杉谷51		大山咋命	旧村社	明神・明和元年(花崗岩)
31	日吉神社	阿南市山口町北山88		大山咋命	旧村社	明神・明治39年(花崗岩)
32	八幡神社	阿南市新野町生谷41		応神天皇 神功皇后	旧無格社	明神・大正14年(花崗岩)
33	春日神社	阿南市新野町前田95		天兒屋根命	旧無格社	神明・平成10年(花崗岩)
34	皇子二所神社 おおじにしよ	阿南市新野町廿枝宮前56		瓊々杵命	旧村社	明神・昭和16年(花崗岩)
35	轟神社 とどろき	阿南市新野町北宮ノ久保4		級長津比古命 級長津比売命	旧村社	明神・明治40年(花崗岩)
36	浮島神社 うきしま	阿南市新野町山亦26		伊邪那岐命 伊邪那美命	旧村社	明神・大正15年(花崗岩)
37	八幡神社	阿南市長生町西字鍛冶ヶ西582		誉田別命	旧村社	明神・昭和55年(花崗岩)
38	八幡神社	阿南市長生町宮内字宮之元463		大己貴命 外三〇有餘の命	旧郷社	明神・昭和11年(RC)
39	八幡神社	阿南市長生町本庄字宮の本5		誉田別命	旧村社	明神・昭和5年(花崗岩)
40	天神社	阿南市長生町三倉字東天満58		菅原道真公	旧村社	明神・大正13年(花崗岩)
41	楠神社	阿南市長生町上荒井橋之元5-1		楠正成公	旧村社	明神・明治41年(花崗岩)
42	豊森神社 とよもり	阿南市長生町明谷字西山244		国常立命	旧村社	明神・大正6年(花崗岩)
43	春日神社	阿南市長生町大原字こんぞく1-2		大山祇命	旧村社	明神・大正9年(花崗岩)
44	王子神社	阿南市長生町大谷字北内60		瓊々杵命	旧村社	明神・昭和15年(花崗岩) 明神・不明(花崗岩)
45	正八幡神社 しょうはちまん	阿南市宝田町郡17		誉田別命	旧村社	明神・昭和9年(花崗岩)
46	八幡神社	阿南市宝田町今市山の北12		応神天皇	旧村社	注連縄・大正12年(花崗岩) 明神・昭和12年(花崗岩)
47	天満神社	阿南市宝田町立善寺梅の本485		菅原道真公	旧村社	注連縄・昭和17年(花崗岩) 明神・享保14年(花崗岩)
48	天神社	阿南市横見町願能地東89		菅原道真公	旧村社	注連縄(花崗岩) 明神・文政8年(花崗岩)
49	若宮神社	阿南市柳島町宮ノ前38		大鷦鷯命	旧村社	明神・昭和62年(花崗岩)
50	皇子神社	阿南市上中町岡中筋268		伊邪那岐命 瓊々杵命	旧村社	明神・平成11年(花崗岩)
51	八幡神社	阿南市上中町南島字宮ノ下103		誉田別命	旧村社	明神・享保9年(花崗岩) 明神・昭和55年(花崗岩)
52	八幡神社	阿南市上中町中原字在所257		誉田別命	旧村社	明神・平成9年(花崗岩)
53	八幡神社	阿南市下大野町橋ノキ106		誉田別命 大山祇命 大己貴命 津津彦命 津津比咩命 瓊々杵命	旧村社	明神・昭和7年(花崗岩)
54	住吉神社	阿南市中大野町南傍132-1		上筒男命 中筒男命 底筒男命	旧村社	注連縄・明治41年(花崗岩) 明神・昭和2年(花崗岩)
55	城内神社 じょうない	阿南市上大野町城内68		誉田別命 大山咋命 大己貴命 菅原道真公 久々能智命 須佐之男命	旧郷社	注連縄(花崗岩) 明神・昭和10年(花崗岩)
56	正八幡神社	阿南市橋根町奥山62		誉田別命	旧村社	明神・大正8年(花崗岩)
57	正八幡神社	阿南市吉井町宮ノ前87-3		誉田別命 息長帯姫命 比咩神	旧村社	注連縄・昭和39年(花崗岩) 注連縄・昭和55年(花崗岩) 明神・明治8年(花崗岩)
58	八幡神社	阿南市加茂町高田29		誉田別命 須佐男命 大山祇命	旧村社	明神・昭和37年(花崗岩)
59	皇子神社	阿南市十八女町宮ノ前79		安徳天皇	旧無格社	台輪・不明(花崗岩)
60	蛭子神社	阿南市水井町中野25		事代主命	旧無格社	明神・大正11年(花崗岩)
61	八幡神社	阿南市大井町中筋84		誉田別命	旧村社	無し
62	八幡神社	阿南市細野町町中上28		品陀別命 息長帯比売命 大雀命	旧村社	台輪・昭和6年(花崗岩)
63	金刀比羅神社	阿南市福井				明神(花崗岩)
64	賀立神社	阿南市椿町蒲生田				明神・慶応4年(花崗岩)
65	八幡神社	羽ノ浦町吉庄宮ノ後79		誉田別命 (相殿)大日靈命 金山彦命	旧村社	明神・安政6年(花崗岩)
66	羽ノ浦神社 はのうら	羽ノ浦町中庄字千田池32		誉田別命 他22柱	旧郷社	注連縄・昭和9年(花崗岩) 明神(花崗岩)
67	明現神社 みよげん	羽ノ浦町岩脇字松の本72		天御中主命	旧村社	明神・昭和55年(花崗岩)
68	秋葉神社 あきば	羽ノ浦町古毛字小谷口72		阿高突智命	旧村社	明神・大正5年(花崗岩) 明神・昭和3年(花崗岩)
69	明見天神社	羽ノ浦町				明神(花崗岩)
70	大蔵神社	羽ノ浦町古毛小谷口				明神・平成20年(花崗岩) 明神・平成15年(花崗岩)

※阿南市史 ※羽ノ浦町誌 ※徳島県神社誌

RC:鉄筋コンクリート S造:鉄骨

平成26年 8 月末日現在

本殿 建築様式	拝殿 建築様式 向拝	特記事項	A B C		
			A	B	C
一間社流造 銅板葺	RC造	本殿拝殿改築・昭和50年			
RC造	RC造	社殿改築・昭和51年、地鎮塔(砂岩)	●		
覆屋 小社殿	なし	社殿改築・平成元年			
覆屋RC造	RC造	地鎮塔・昭和37年(砂岩)	●		
拝殿に納まる	切妻造 瓦葺 向拝/鎗破風	地鎮塔・平成6年(花崗岩)	●		
覆屋	切妻造 瓦葺 向拝/鎗破風				
八幡神社:一間社流造 銅板葺	入母屋造 千鳥破風 瓦葺			●	
小苗神社:一間社流造 銅板葺					
RC造	RC造	地鎮塔(砂岩)	●		
一間社流造 銅板葺	入母屋造 瓦葺 向拝/大唐破風			●	
覆屋	切妻造 瓦葺				
RC造	RC造	神社改築・平成4年、地鎮塔・寛政12年(砂岩)、農村舞台	●		○
覆屋	入母屋造 千鳥破風 銅板葺 向拝/鎗破風	神社改築・平成12年、農村舞台			●
覆屋	切妻造 銅板葺 向拝/鎗破風	地鎮塔(砂岩)、農村舞台	●		●
覆屋	切妻造 瓦葺 向拝/大唐破風	地鎮塔	●		
一間社流造 柿葺	切妻造 瓦葺 向拝/大唐破風	社殿改築・昭和12年、地鎮塔(砂岩)	●		
一間社流造 柿葺 向拝/軒唐破風	入母屋造 千鳥破風 瓦葺 向拝/大唐破風 銅板葺				
覆屋 一間社春日造 柿葺 向拝/軒唐破風	片入母屋造 スレート瓦葺 向拝/庇 妻入	農村舞台		●	●
覆屋RC造	RC造	本殿拝殿・昭和58年、地鎮塔(花崗岩)、農村舞台	●		○
三間社流造 銅板葺(様式外)	切妻造 鉄板葺 向拝/大唐破風				
覆屋RC造	入母屋造 銅板葺 向拝/大唐破風	新築改修・平成8年、地鎮塔・明治27年(砂岩)	●		
一間社流造 銅板葺	入母屋造 瓦葺 向拝/大唐破風				
一間社流造 鉄板葺	入母屋造 瓦葺 向拝/大唐破風				
一間社流造 銅板葺	入母屋造 銅板葺 向拝/鎗破風	拝殿改築・大正15年、地鎮塔(砂岩)	●		
一間社流造 銅板葺	入母屋造 瓦葺 向拝/入母屋	本殿修築・昭和54年、拝殿・大正元年、農村舞台			●
覆屋S造 一間社流造 桧皮葺	入母屋造 瓦葺 向拝/大唐破風				○
覆屋 小社殿	切妻造 銅板葺 向拝/鎗破風	拝殿改築・昭和61年			
一間社流造 銅板葺	入母屋造 瓦葺 向拝/大唐破風				
二間社流造 銅板葺	入母屋造 瓦葺	農村舞台(建替工事中)			○
一間社流造 銅板葺	入母屋造 銅板葺 向拝/鎗破風	拝殿・平成11年		●	
一間社流造 銅板葺	入母屋造 瓦葺 向拝/鎗破風	地鎮塔・文政6年(砂岩)、農村舞台	●	●	●
覆屋 一間社流造 板葺	入母屋造 瓦葺 向拝/鎗破風	拝殿・昭和55年、地鎮塔(砂岩)、農村舞台(S造)	●		○
覆屋 小社殿	なし	地鎮塔・大正9年(砂岩)	●		
覆屋 見世欄造	なし	地鎮塔・慶応元年(砂岩)	●		
一間社流造 銅板葺	入母屋造 瓦葺 向拝/鎗破風	本殿拝殿・平成13年、地鎮塔・明治44年(砂岩)	●		○
二間社春日造 銅板葺	入母屋造 瓦葺 向拝/大唐破風	地鎮塔・大正4年(砂岩)	●		
覆屋	入母屋造 スレート瓦葺 向拝/鎗破風	改築・平成3年、地鎮塔・明治30年(砂岩)、農村舞台	●		○
一間社流造 鉄板葺	入母屋造 瓦葺 向拝/軒唐破風	拝殿改築・昭和40年			●
覆屋	切妻造 瓦葺 向拝/鎗破風	地鎮塔(砂岩)、農村舞台	●		●
二間社流造 銅板葺	入母屋造 銅板葺 向拝/鎗破風	社殿再興・平成17年	●		●
覆屋 小社殿	入母屋造 瓦葺 向拝/大唐破風	地鎮塔・文政元年(砂岩)、農村舞台	●		○
覆屋 一間社春日造 柿葺	切妻造 金属板葺 向拝/庇 妻入	拝殿修理・平成8年、地鎮塔(砂岩)、農村舞台	●		
覆屋	入母屋造 瓦葺 向拝/鎗破風				
見世欄造	様式外	本殿改築・平成21年、地鎮塔(砂岩)	●		
一間社流造 銅板葺 折屋根	切妻造 瓦葺 向拝/鎗破風	地鎮塔(砂岩)、農村舞台(昭和55年新築)	●		○
一間社流造 銅板葺	入母屋造 瓦葺	地鎮塔(砂岩)	●		
一間社流造 銅板葺	切妻造 瓦葺 向拝/鎗破風	拝殿改築・平成8年改築、地鎮塔(砂岩)	●		
一間社流造 銅板葺	RC造	地鎮塔・寛政4年(砂岩)	●		
一間社流造 銅板葺	RC造	本殿建築・昭和5年、地鎮塔	●		
RC造(屋根部木造)	RC造	社殿造営・昭和62年、地鎮塔(砂岩)、農村舞台	●		○
覆屋	入母屋造 銅板葺 向拝/鎗破風	神社改新築・平成11年、地鎮塔(砂岩)、農村舞台	●		●
一間社流造 鉄板葺	RC造	地鎮塔(砂岩)	●		
一間社流造 銅板葺	RC造	神社改築・昭和53年、地鎮塔(砂岩)、農村舞台	●		○
一間社流造 銅板葺	入母屋造 瓦葺 向拝/鎗破風	神社改築・昭和62年、拝殿改築・平成2年	●		●
覆屋 一間社春日造 桧皮葺	入母屋造 瓦葺 向拝/大唐破風	地鎮塔・文化9年(砂岩)、農村舞台	●		
一間社流造 銅板葺	切妻造 瓦葺	地鎮塔(砂岩)	●		
一間社流造 銅板葺	RC造	社殿補修拝殿改築・昭和38年、地鎮塔(砂岩)	●		
三間社流造 銅板葺	入母屋造 銅板葺 向拝/軒唐破風	神社改築・昭和13年、舞台改築・昭和52年	●		●
三間社流造 銅板葺	入母屋造 銅板葺	拝殿建築・昭和39年、地鎮塔・文政13年(砂岩)	●		
一間社流造 銅板葺	入母屋造 瓦葺 向拝/大唐破風 妻入	地鎮塔・文久2年(砂岩)、農村舞台	●		○
一間社流造 銅板葺	片入母屋造 瓦葺 向拝/庇 妻入	地鎮塔(砂岩)、農村舞台	●	●	○
一間社流造 銅板葺	片入母屋造 鉄板葺 向拝/大唐破風 妻入	農村舞台			●
一間社流造 銅板葺	片入母屋造 瓦葺 妻入	地鎮塔・文久4年(砂岩)	●		
覆屋 一間社流造 桧皮葺 向拝/軒唐破風	入母屋造 瓦葺 千鳥破風 向拝/軒唐破風	本殿・市指定の文化財		●	
覆屋 一間社流造 板葺	片入母屋 瓦葺 向拝/鎗破風				
一間社流造 鉄板葺	入母屋造 瓦葺 向拝/大唐破風				
工事中	工事中				
一間社流造 銅板葺	入母屋造 銅板葺 向拝/大唐破風	社殿改築・平成元年			
覆屋 一間社流造 銅板葺	入母屋造 瓦葺 向拝/入母屋	地鎮塔(砂岩)	●		
覆屋 小社殿	切妻造 瓦葺 向拝/鎗破風	地鎮塔・天保10年(砂岩)	●		
覆屋 小社殿	切妻造 瓦葺 向拝/鎗破風				

A: 地神塔 B: 四方八方の組物 C: 農村舞台(伝統的●・建替○)

表2 寺院・お堂建築調査一覧表

平成26年8月末日現在

観音寺	所在地	宗派・本尊	建物名 屋根形式 屋根材	特記事項
1 観音寺	阿南市横見町願能地東91	真言宗十一面観音菩薩	本堂:RC造	
2 普賢寺 ふげんじ	阿南市黒津地町末広41	真言宗延命地藏菩薩	本堂:RC造、薬医門:切妻造 瓦葺、薬師堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風 鐘楼:入母屋造 瓦葺	鐘楼・平成7年
3 浄土寺	阿南市富岡町第住町421	真言宗大日如来	本堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風、薬医門:切妻造 瓦葺 大師堂:寄棟 瓦葺 向拝/緋破風	観音堂・享保14年(1729)※1
4 正福寺	阿南市富岡町滝の下28	真言宗愛染明王	本堂:入母屋造 瓦葺、鐘楼:入母屋造 瓦葺	本堂解体修理・平成2年
5 興隆寺	阿南市宝田町井間117	真言宗薬師如来	本堂:RC造、薬師堂:RC造	
6 隆福寺	阿南市宝田町久保田119-12	真言宗阿弥陀如来	本堂:寄棟造 瓦葺、観音堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風 妻入 薬医門:切妻造 瓦葺、鐘楼:入母屋造 瓦葺	
7 密蔵院 みつぞういん	阿南市宝田町梅の本506	真言宗如意輪観音菩薩	本堂:RC造、薬医門:切妻造 瓦葺	本堂改築・昭和55年
8 長壽寺	阿南市才見町平野40	真言宗阿弥陀如来	本堂:寄棟造 瓦葺、薬医門:切妻造 瓦葺	
9 千福寺 せんぶくじ	阿南市見能林町寺の前4	真言宗薬師如来	本堂:片入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風、薬医門:切妻造 瓦葺 観音堂:切妻造 瓦葺 向拝/緋破風、鐘楼:入母屋造 瓦葺	本堂・平成21年
10 真福寺	阿南市中林町林崎3	真言宗大仏師尊	本堂:入母屋造 瓦葺、大師堂:切妻造 瓦葺、鐘楼:切妻造 瓦葺	
11 多聞寺	阿南市福井町宮宅100	真言宗聖観音菩薩	本堂:切妻造 スレート瓦葺 向拝/入母屋、毘沙門堂:宝形造 瓦葺 向拝/緋破風	毘沙門堂・昭和62年
12 真光寺	阿南市福井町土佐谷4	真言宗聖観音菩薩	本堂:切妻造 瓦葺 向拝/緋破風、鐘楼:入母屋造 瓦葺	本堂改築・平成19年
13 神宮寺 じんぐうじ	阿南市福井町大宮102	真言宗不動明王	本堂:寄棟造 瓦葺、薬医門:切妻造 瓦葺、鐘楼:入母屋造 瓦葺 薬師堂:宝形造 瓦葺 向拝/緋破風	薬師堂・昭和59年、宝篋印塔:寛延元年
14 宝蔵院	阿南市上中町南島119-1	真言宗聖観音菩薩	本堂:RC造	
15 松林寺	阿南市伊島町瀬戸36	真言宗十一面観音菩薩	本堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風、薬医門:切妻造 瓦葺	本堂・昭和56年、薬医門・昭和60年
16 吉祥時	阿南市椿町寺前51	真言宗阿弥陀如来	本堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風、薬師堂:寄棟造 瓦葺 向拝/緋破風 鐘楼:切妻造 瓦葺	本堂改築・平成6年、薬師堂・昭和57年
17 福蔵寺	阿南市椿泊町東87	真言宗十一面観音菩薩	本堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風、鐘楼:切妻造 瓦葺	鐘楼再建・昭和11年 宝篋印塔:享保10年(砂岩)
18 道明寺	阿南市椿泊町寺谷114	真言宗阿弥陀如来	本堂:片入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風 平入、護摩堂:切妻造 瓦葺	護摩堂・昭和28年
19 常光寺	阿南市山口町久延51	真言宗阿弥陀如来	本堂:寄棟造 金属板葺、鐘楼:入母屋造 瓦葺	
20 蓮光寺	阿南市山口町末広7	真言宗地藏菩薩	本堂:入母屋造 瓦葺、薬医門:切妻造 瓦葺、観音堂:切妻造 瓦葺 向拝/緋破風 鐘楼:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風	
21 萬福寺	阿南市桑野町町元116	真言宗不動明王(と薬師如来)	本堂:入母屋造 瓦葺 向拝/大寺破風、観音堂:切妻造 瓦葺 向拝/緋破風 大師堂:入母屋 銅板葺 向拝/緋破風、鐘楼:切妻造 瓦葺	本堂・康永・観音堂再建・平成8年 大師堂改築・昭和57年
22 東福寺	阿南市内原町山下21	真言宗薬師如来	本堂:切妻造 瓦葺 向拝/緋破風、鐘楼:入母屋造 瓦葺 薬師堂:宝形造 瓦葺 向拝/緋破風	本堂再建・平成11年、鐘楼大修理・平成元年 薬師堂改築修繕・平成10年
23 善昌寺 ぜんしょうじ	阿南市長生町間谷32	真言宗毘沙門天	本堂:寄棟造 スレート瓦葺、山門:切妻造 瓦葺、鐘楼:切妻造 銅板葺 灌頂堂:宝形造 瓦葺	
24 明谷寺 めいこくじ	阿南市長生町明谷北浦50	真言宗聖観音菩薩	観音堂:宝形造 銅板葺 向拝/緋破風、鐘楼:入母屋造 瓦葺 納経所:入母屋 瓦葺 向拝/庇	観音堂改築・平成10年、鐘楼・平成24年 納経所改築・昭和27年
25 八針寺 やはこじ	阿南市長生町宮内464-1	真言宗不動明王	本堂	本堂・平成12年
26 神宮寺	阿南市上大野町別所2	真言宗聖観音菩薩	本堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風 妻入、鐘楼:入母屋造 瓦葺	本堂建築・昭和38年、宝篋印塔:文化10年
27 真養寺 しんようじ	阿南市上大野町城之内77	真言宗聖観音菩薩	本堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風	宝篋印塔:文政12年
28 太龍寺	阿南市加茂町龍山2	真言宗虚空蔵菩薩	本堂:入母屋造 柿葺形銅板葺 多宝塔:三間多宝塔婆 本瓦型銅板葺 大師堂:入母屋造 柿葺形銅板葺 向拝/緋破風 軒唐破風 仁王門:入母屋造 柿葺形銅板葺 御影堂:宝形造 銅板葺	第21番札所
29 一宿寺 いっしゅくじ	阿南市加茂町宿居谷5	真言宗薬師如来	本堂:寄棟造 瓦葺 向拝/庇、鐘楼:切妻造 瓦葺	本堂建築・平成21年、鐘楼建築・平成23年
30 平等寺 びょうどじ	阿南市新野町秋山177	真言宗薬師如来	本堂:こころ葺 瓦葺 向拝/緋破風、山門:楼門兼仁王門 入母屋造 瓦葺 大師堂:宝形造 瓦葺 向拝/緋破風、不動堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風 鐘楼:切妻造 瓦葺	第22番札所
31 壽修寺	阿南市新野町東谷14	真言宗十一面観音菩薩	本堂:切妻造 瓦葺、観音堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風	本堂改築・平成12年
32 観音寺	阿南市柳島町北条22	真言宗聖観音菩薩	本堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風	
33 大日寺	阿南市新野町貞持43-2	真言宗不動明王	本堂:切妻造 瓦葺 向拝/緋破風	本堂改築・平成17年、地鎮塔
34 円福寺 えんぶくじ	阿南市新野町宮前53	真言宗薬師如来	本堂:入母屋造 金属葺、薬医門:切妻造 瓦葺、大師堂:S造	
35 神宮寺	阿南市新野町宮ノ北34-1	真言宗釈迦如来	本堂:切妻造 瓦葺 向拝/緋破風、薬医門:切妻造 瓦葺	
36 龍谷寺	阿南市新野町豊田木戸89	真言宗阿弥陀如来	本堂:切妻造 瓦葺 向拝/緋破風、薬師堂:宝形造、銅板葺 向拝/緋破風	本殿改築・平成5年 宝篋印塔:慶応2年(砂岩)
37 光明寺 こうみょうじ	阿南市黒津地町戒野22	浄土宗阿弥陀如来	本堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風、薬医門:切妻造 瓦葺	
38 華蔵寺 けざうじ	阿南市椿泊町寺谷78	浄土宗阿弥陀如来	本堂:切妻造 瓦葺 向拝/緋破風 観音堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風 妻入	本堂・大正3年、観音堂・昭和3年
39 常光寺	阿南市黒津地町戒野97	浄土真宗阿弥陀如来	本堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風、薬医門:切妻造 瓦葺 鐘楼:入母屋造 瓦葺	薬医門・昭和28年
40 光円寺	阿南市富岡町東仲町266-1	浄土真宗阿弥陀如来	本堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風、鐘楼門:入母屋造 瓦葺	
41 円長寺	阿南市富岡町東仲町264-1	浄土真宗阿弥陀如来	本堂:RC造、鐘楼:切妻造 瓦葺	
42 等覚寺	阿南市椿泊町東63	浄土真宗阿弥陀如来	本堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風	本堂修復・昭和61年
43 妙泉寺	阿南市富岡町西石塚11	日蓮宗大曼荼羅	本堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風	
44 本覚寺 ほんかくじ	阿南市富岡町トノ町64	曹洞宗観音菩薩	本堂:寄棟 瓦葺	
45 桂国寺 けいこくじ	阿南市長生町寺ノ前34	曹洞宗釈迦如来	本堂:入母屋 瓦葺	
46 円福寺 えんぶくじ	阿南市新野町貞信27	曹洞宗如意輪観音菩薩	本堂:切妻造 瓦葺 向拝/緋破風、山門:切妻造 瓦葺	本堂再建・平成13年
47 地藏寺	阿南市津乃峰町西分143	真言宗延命地藏菩薩	本堂:入母屋造 瓦葺、薬医門:切妻造 瓦葺、鐘楼:入母屋造 瓦葺 観音堂、地藏堂、護摩堂、鎮守堂	鐘楼再建・平成3年
48 梅谷寺 ばいこくじ	阿南市桑野町鳥居前5	真言宗十一面観音菩薩	本堂:入母屋造 瓦葺、お堂:宝形造 瓦葺 向拝/緋破風	本堂再建・平成3年
49 光明寺	阿南市橋町荒神ノ上38	真言宗薬師如来	本堂:入母屋造 瓦葺、鐘楼:入母屋造 瓦葺 大師堂:入母屋造 瓦葺 向拝/緋破風	
50 吉祥寺	阿南市長生町西方556	真言宗聖観音菩薩	本堂、棟門、鐘楼:入母屋造 瓦葺、納骨堂	本堂・平成16年
51 神院院 かんおういん	阿南市下大野町福ノ次107	真言宗観音菩薩	本堂:改築中、鐘楼:RC造	
52 正玄寺	阿南市日開野町筒路19-6	日蓮正宗大曼荼羅	本堂:対象外	
53 金林寺 こんりんじ	阿南市福井町浜田105-2	真言宗弁財天	本堂:入母屋造 庇付 瓦葺 妻入	
54 弘明寺 こうみょうじ	阿南市福井町森59	浄土真宗阿弥陀如来	本堂:様式外、薬医門:切妻造 瓦葺	
55 奉正寺	阿南市羽ノ浦町中庄字千田池33	真言宗地藏菩薩	本堂:入母屋 銅板葺 二重 新様式、山門:入母屋 銅板葺 黄檗宗風 新様式、 大師堂:宝形造 瓦葺、観音堂:新様式、弁財天堂:春日造 銅板葺 組物四方八方	山門・昭和59年、大師堂・平成8年 観音堂・平成12年
56 龍路寺 のうろじ	阿南市羽ノ浦町富倉字芦戸田60	真言宗薬師如来	本堂:切妻 瓦葺 向拝/緋破風	
57 取星寺 ちしゅうじ	阿南市羽ノ浦町岩崎字松ノ本71	真言宗虚空蔵菩薩	本堂:RC造、納経所:寄棟造 瓦葺、鐘楼:入母屋造 瓦葺、阿弥陀堂:RC造 三堂荒神堂:RC造、大師堂:様式外	
58 観音寺	阿南市羽ノ浦町古庄字宮ノ後78	真言宗観音菩薩	本堂:入母屋 銅板葺 向拝/軒唐破風、鐘楼:入母屋 瓦葺 文殊堂:入母屋 向拝/軒唐破風 切妻造 瓦葺 向拝/緋破風 宝形造 瓦葺 向拝/緋破風 寄棟造 瓦葺 向拝/緋破風	本堂改築・平成20年、文殊堂・昭和63年
a 薬師堂	阿南市羽ノ浦町中庄字高田原36			本堂改築・昭和62年
b 薬師堂	阿南市新野町前田			
c 薬師堂	阿南市見能林町			

※阿南市史 ※羽ノ浦町誌 ※徳島県寺院辞典(中) ※1徳島県の近世社寺建築

RC:鉄筋コンクリート、S造:鉄骨

3. 阿南市の各社寺建築

1) 大宮八幡神社本殿 (表1-25)

鎮座地 - 阿南市福井町大宮100

[本殿] 木造 一間社流造 檜皮葺
 身舎 - 円柱 (上粽) 切目長押 内法長押
 頭貫木鼻 (拳) 台輪木鼻 出組 中備彫刻
 彫刻板支輪 二軒繁垂木 切石基壇 棧唐戸
 妻飾・虹梁 大瓶束笈形付
 向拝 - 角柱 (几帳面) 虹梁型頭貫木鼻 (象)
 錫丈彫 重ね出三斗送斗付 中備彫刻 手扶
 二軒繁垂木 三方切目縁 刎高欄
 脇障子 (板透かし彫) 階五級 (木口)
 昇擬宝珠高欄 浜床 腰組・東立腰板張
 千木 - なし 堅男木 - なし

(図7~10)

この社は、阿南市の南部、福井町大宮に鎮座する。阿南市史によると、『阿波志』に「八幡祠 福井下村に在り。大宮と称す。何年に置くを知らず。応永2年(1395)・大永5年(1525)重造す」と記されている。



図7 本殿全景



図8 身舎正面の中備彫刻

本殿は、一間社流造檜皮葺で覆屋の中に納められており、切石の基壇に載る。身舎部分は、円柱(上粽)を切目長押と内法長押で固め、柱頭部には頭貫木鼻(拳)と台輪が載る(図7)。組物は出組で、柱間の中備には那賀川流域に多く見られる、翁と水を砕いたような彫刻を填める(図8)。軒は二軒繁垂木とし、妻飾は大虹梁の上部に笈形付の大瓶束が載る。出組の軒は彫刻板支輪を填める(図9)。

向拝部分は虹梁型頭貫木鼻(象)で固め、頭貫下面に錫丈彫が施されている。柱頭部には大斗を置き、二重の出三斗に送斗で軒を受け、中備彫刻を填め、手扶で身舎と繋ぐ。縁は三方切目縁で刎高欄を回し、身舎背面柱筋に脇障子が付く。階は五級の木口階段とし、昇擬宝珠高欄を付け、浜床を張る。

建築年代は、明治12年屋根葺替の棟札及び様式より江戸末期頃と推測される。

また、境内脇には農村舞台がある。建物は現代的なものに建て替えられているが、その向かいに石積みみの棧敷席があり、往時の面影を残している。



図9 本殿妻飾

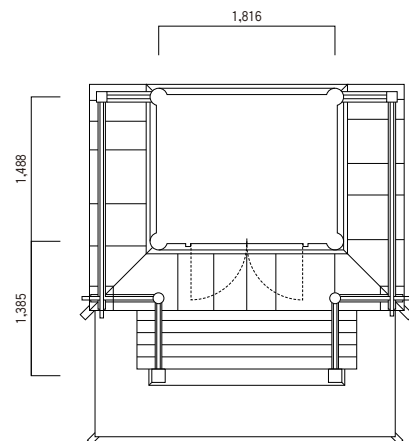


図10 平面図

2) 八幡神社本殿 (表 1-7)

鎮座地 - 喉町新ばり 221

[本殿] 木造 一間社流造 銅板葺

身舎 - 円柱 (上粽) 切目長押 内法長押

頭貫木鼻 (拳) 台輪木鼻 三手先 (八方)

中備彫刻 二軒繁垂木 切石基壇 棧唐戸

妻飾・大虹梁出組 二重虹梁 太瓶束笈形付

向拝 - 角柱 (几帳面取) 虹梁型頭貫木鼻 (象)

重ね出三斗送斗付 中備彫刻 繫海老虹梁

三方切目縁 刎高欄 階五級 (木口)

昇擬宝珠高欄 浜床 腰組

束立腰板張 (出組) 脇障子 (彫刻)

千木 - 2 本 堅魚木 - 3 本

(図11~14)

この社は、阿南市の北東部に鎮座する。阿南市史によれば、阿波志に「八幡祠 西路水村に在り。石塚祠を祀る也。松樹蒼鬱、側に小苗祠あり。其の神かつて水田中に得」と記述がある。

本殿は、一間社流造銅板葺で、砂岩の切石布積み
の基壇に載る。身舎部分は円柱 (上粽) を切目長押、
内法長押で固め、横羽目板の壁を張る。柱頭部は頭

貫木鼻 (拳) と台輪が載り、組物は三手先とし、那
賀川流域によく見られる四方八方に伸びる組物が見
られる。また、三手先部分の斗が一部省略されてい
る (図11)。柱間には中備彫刻を詰め、翁と氷を砕
いたような岩の彫刻が見られるが、岩には細かい彫
刻が施されている (図12)。軒は二軒繁垂木とし、
妻飾は、大虹梁の上を出組の組物とし、二重虹梁を
載せ、太瓶束笈形付で棟を支える。軒裏は、水平な
軒天と彫刻板支輪で構成される (図13)。

向拝は、几帳面取りの角柱を虹梁型頭貫木鼻 (象)
で固める。柱頭部の組物は、重ね出三斗送斗付とし、
柱間には中備彫刻を詰め、繫海老虹梁で身舎と繋ぐ。
縁は三方切目縁とし、刎高欄が彫刻を施した脇障子
(鳳凰) に取り付く。軒は二軒繁垂木である。階は
五級の木口階段とし、昇擬宝珠高欄を付け、浜床を
張る。腰組は出組で束を立て腰板張とする。

この社の横には、非常によく似た規模と意匠の撰
社小苗神社が並列して建ち、双方の向拝には、明治
4 年 (1871) と書かれた扁額が掛けられている。

建築年代は、様式により幕末から明治期の建物と
推測される。



図11 本殿全景



図13 本殿妻飾



図12 本殿妻飾の彫刻

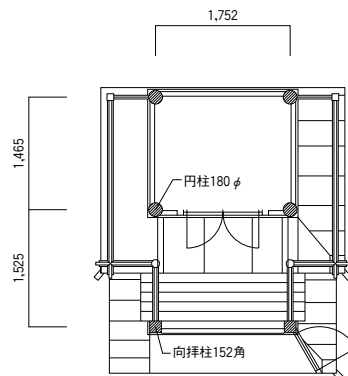


図14 本殿平面図

3) 塩竈神社本殿 (表1-17)

鎮座地-津乃峰町長浜420-1

[本殿] 木造一間社春日造 柿葺 向拝 軒唐破風

身舎-円柱 (上粽) 切目長押 内法長押

頭貫木鼻 (拳) 台輪木鼻 皿斗 出組 (八方)

詰組 中備墓股 (鳥・虎) 蛇腹支輪

二軒繁垂木 棧唐戸

向拝-角柱 (唐戸面) 木鼻 外側:獅子 内側:牡丹

出三斗送斗付 虹梁 太瓶束笈形付 茨垂木

兎毛通 繫海老虹梁 三方切目縁 刎高欄

脇障子 昇擬宝珠高欄 階五級 (木口)

浜床

千木-不明 堅魚木-不明 木鬼板

(図15~18)

この社は、阿南市の東部、橘港に面する津乃峰町長浜に鎮座する。創建年代は境内に、寛永13年(1636)に当地長浜鎮守として四宮加賀守が入居、塩田を開き、塩竈神社を建立とある。

本殿は、一間社春日造の柿葺で向拝は軒唐破風である。覆屋に安置されており、基壇や背面の状況は確認できなかった。身舎部分は円柱(上粽)を切目長押と内法長押で固め、柱頭部には拳鼻付きの虹梁型頭貫と台輪が載り台輪木鼻が付く。身舎の組物は出組で、四方八方の手先組物がみられる。柱間に詰組が付く、両側に中備墓股(鳥)を詰め、軒裏は蛇腹支輪とする。軒は、二軒繁垂木とする(図16)。

向拝部分は唐戸面の角柱を立て、頭貫の位置に外側に獅子、内側に牡丹の木鼻が付く、柱頭部は出三斗に連斗が付く組物で構成され虹梁が載る。繫ぎには海老虹梁が取り付く。虹梁には、笈形付きの太瓶束が載り、軒を支える。軒は茨垂木とし、兎毛通が付く。

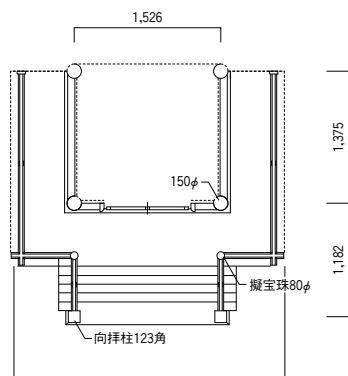


図15 本殿平面図

縁は、三方切目縁で刎高欄を回し、身舎背面柱筋に脇障子が付く。階は五級の木口階段とし、昇擬宝珠高欄を付け、浜床を張る。

向拝唐破風の兎毛通には、彩色が施され、身舎柱間の中備墓股や向拝柱の内側に付く木鼻(牡丹)、身舎の隅木を支える鬼などには彩色の痕跡(胡粉)が見られ、往時の面影を見ることが出来る(図17)。

境内に元禄16年(1703)大工:岐木浦,野原六三郎藤原朝臣舟重らにより大補修さるとの由緒書きがある。棟札は残されておらず、建築年代は、中備墓股の様式などより江戸初期のものと考えられるが、度重なる後補を経て現在に至るものと推測される(図18)。



図16 向拝正面



図17 身舎正面



図18 身舎正面中備墓股と組物

4) 蛭子神社本殿 (表1-60)

鎮座地－水井町中野25

[本殿] 木造一間社流造 銅板葺

身舎－円柱 (上粽) 切目長押 内法長押

頭貫木鼻 (獅子) 台輪留^{だいわどめ} 三手先 (八方)

中備彫刻 (正面－鯉, 右側面－亀) 二軒繁

垂木 切石基壇乱積 (砂岩) 棧唐戸

妻飾・大虹梁 出組 二重虹梁

中備彫刻 (右側面のみ) 彫刻墓股

向拝－角柱 (几帳面) 虹梁型頭貫木鼻 (龍)

重ね出三斗送斗付 繫海老虹梁 手扶

三方切目縁 勿高欄 脇障子 (彫刻－鯉・蓮)

階五級 (木口) 擬宝珠柱 彫刻板手摺

腰組 (出組) 束立腰板張 浜床

千木－垂直切2本 堅魚木2本

(図19～22)

この社は、那賀川沿いの阿南市北西部に鎮座する。徳島県神社誌に「樟の船にのって和喰から水の流のままに流れ下って吉き地をまぎ求められつつ当地水井にお着きになられ、そのまま鎮り給うた」とあるように、川沿いの少し小高い斜面に祀られている。

本殿は、一間社流造銅板葺きで、切石乱積の基壇に載る。身舎部分は、円柱 (上粽) を切目長押と内法長押で固め、柱頭には獅子鼻付の頭貫と台輪留が載る (図19)。組み物は、那賀川流域でよく見られる四方八方に手先が伸びる三手先で、柱間には、彫刻を填める。但し、背面と左側面の斜面側は、彫刻が省略されている。軒は、二軒繁垂木とし、妻飾りは、大虹梁の上に^ま出組の組み物を置き、二重虹梁を載せる。彫刻墓股を載せ^{むなぎ}棟木を支える。組み物の間には彫刻を填める (図20)。

向拝は、几帳面取の角柱を虹梁型頭貫木鼻 (龍) で固める。柱頭部の組み物は、送り斗付の重ね出三斗とし、柱間には竜の胴体を彫った中備彫刻を填める。繫海老虹梁と手扶で身舎と繋ぐ。縁は、三方切目縁で、勿高欄が彫刻を填め込んだ脇障子に取り付く。腰組は、出組とする。階は、木口階段五級とし、擬宝珠柱と向柱に間に彫刻板手摺を付ける。最下部は浜床が張られる。

建築年代は、明治5年 (1872) の棟札に「奉再幸蛭子神社蛭子命那賀郡水井村忠鎮座」裏面には「大

工加茂村木南杵五郎俊澄 日下五郎義澄」と記述されており、この年の建立と考えられる。棟札は他に28枚あり、最古のものは、慶長12年 (1607) のものであった。また、江戸時代のもは四国88カ所の札所で、21番札所の太龍寺の造営に関わった大工近藤六郎左衛門の名が入ったものがほとんどで、代々、名前を継承していたものと考えられる (図21)。



図19 本殿全景



図20 本殿妻飾



図21 棟札

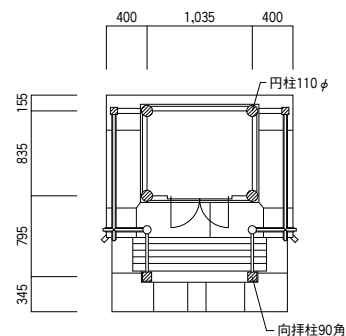


図22 平面図

5) 楠神社本殿 (表1-41)

鎮座地-長生町楠之元5-1

[本殿] 木造 一間社春日造 柿葺

身舎一円柱 切目長押 内法長押 頭貫木鼻(獅子)

台輪留 出組 詰組 蛇腹支輪 一軒繁垂木

切石基壇 (和泉砂岩) 棧唐戸

向拝一角柱 (唐戸面) 虹梁型頭貫木鼻 (象)

皿斗 出三斗連斗付 中備彫刻 (竜・正面欠落)

繫海老虹梁 手挟 一軒繁垂木 三方くれ縁

逆連高欄 (板彫刻) 脇障子 (板) 階三級 (板)

束立腰板張 浜床

千木一無 堅魚木一無

(図23~25)

この社は、阿南市の中央部、桑野川流域の長生町楠之元に鎮座する。由緒書によると創建は文明年間(1450)頃、長生村誌には、弘化年間(1844-1848)に神社本殿建立とある。楠神社は阿南市内では、この一社である。本殿は、一間社春日造柿葺で、砂岩の切石基壇に載り、覆屋に安置される。身舎部分は円柱を切目長押と内法長押で固め、柱頭には獅子鼻付きの虹梁型頭貫が載る。頭貫側面には錫杖風の彫刻が見られる。身舎の組物は出組で、柱間に詰組が付き、軒裏は折り上げ天井に銅板を張り蛇腹支輪とする。軒は一軒繁垂木とする。内部は前後二室に分けられている(図24)。

向拝部分は唐戸面の角柱を立て、虹梁型頭貫で固め象の木鼻が付く。柱頭部の組物は皿斗の上に連斗付三斗で構成され、中備彫刻(竜)を詰め、繫海老虹梁と手挟で身舎と繋ぐ(図25)。

縁は、三方くれ縁(大仏様)で、逆連高欄(禅宗様)を回し、板彫刻を詰め、身舎背面柱筋に脇障子が付く。階は三級の板階段で浜床を張る。腰組は、束を立て腰板を張る。

向拝柱正面の頭貫木鼻の欠落など、損傷が見られるものの、身舎側板には十六菊、脇障子上部には、菊水の彫刻など、楠公との関わりのある絵様がみられる。

また、棧唐戸には、^{まんじ}左卍や抱き柏など蜂須賀家の紋が見られる。

今回の調査において、明治22年(1889)奉再葺の棟札を確認したが、建築年代は様式より、江戸末期から明治初期のものと推測される。



図24 本殿全景

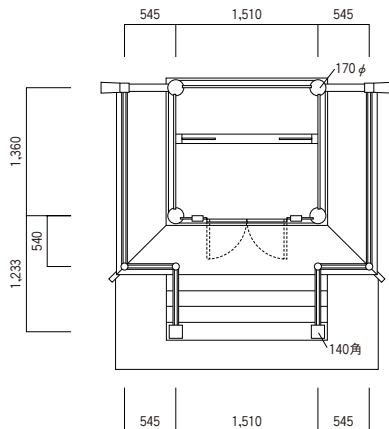


図23 本殿平面図



図25 向拝柱頭組物

表3 棟札調査一覧表

名称	○は現存建物	番号	西暦	年号	年	干支	月日	目的	大工	その他	寸法				鬼門切	
											総高	片高	上幅	下幅		厚さ
60 梶子神社 (水井町)	神殿	1	1607	慶長	12	丁未	十二月二十六日	新建立	大工 ○○	小工 ○○	556	345	81	75	7	左
	神殿	2	1627	寛文	4	甲辰	十二月吉日	上葺	大工 ○○○		490	481	82	75	12	左
	神殿	3	1633	寛永	10	癸酉	九月			明屋院勢恵	483	470	81	78	8	左
	大明神宮	4	1687	貞享	一	丁卯	九月廿五吉日	再興	大工近藤左兵衛門吉次		582	578	100	80	11	左
	大明神宮	5	1687	貞享	一	丁卯	歴九月吉日	再興	大工近藤左兵衛門吉次		562	556	97	82	16	
	大明神宮	6	1725	享保	拾	乙巳	九月吉祥日	再興	大工藤原朝臣近藤六郎左衛門吉次	小工○○伊衛門氏満	501	498	99	87	17	
	○大権現	7	1730	享保	十五	庚戌	三月吉日	再興	大工藤原朝臣近藤六郎左衛門吉次	小工松尾莊左衛門	451	442	91	81	17	西
	神殿	8	1734	享保	十九	甲寅	九月吉日	上葺	大工近藤六郎左衛門吉次		420	413	78	68	22	
	大明神本社	9	1746	延享	三	丙寅	九月吉日	再興	大工近藤六郎左衛門吉次		547	540	99	82	21	左
	○大権現	10	1746	延享	三	丙寅	晩秋吉祥日	再興	大工近藤六郎左衛門吉次		415	408	78	72	18	左
	大明神本社	11	1758	宝暦	八	戊寅	九月吉祥日	再興	大工近藤六郎左衛門吉次		466	459	101	92	12	左
	○大権現	12	1758	宝暦	八	戊寅	九月吉祥日	再興	大工近藤六郎左衛門吉次		389	381	91	84	14	右
	大明神宮	13	1771	明和	八	辛卯	九月吉祥日	上葺	大工近藤六郎左衛門吉次		472	466	90	80	12	
	大明神宮	14	1784	天明	四	甲辰	九月吉祥日	上葺	大工近藤六郎左衛門吉次		582	574	100	82	14	
	大明神	15	1795	寛政	七	乙卯	十二月吉日	上葺	大工藤原朝臣近藤六郎左衛門吉次		469	461	90	79	19	
	大明神	16	1803	享和	三	癸亥	九月吉祥日	再建	大工藤原朝臣近藤六郎左衛門吉次	小工延野村服部元左衛門光里	477	467	94	85	21	
	大明神	17	1808	文化	五	戊辰	五月吉祥日	上葺	大工藤原朝臣近藤六郎左衛門吉次		491	489	107	93	16	
	鳥居	18	1822	文政	五	壬午	六月吉日	再建	大工近藤六郎左衛門想氏子中		477	458	85	80	15	
	大神	19	1839	天保	拾	己亥	十二月吉日	上葺	大工藤原朝臣近藤六郎左衛門吉次	小工加茂村六良三門	480	466	88	76	12	左
	大神	20	1854	嘉永	七	甲寅	八月吉日	再建	大工藤原朝臣近藤六郎左衛門吉次	小工加茂村秋五右衛門俊澄	656	640	169	142	12	
	神社	○	21	1872	明治	五	壬申	六月吉日	再興	大工加茂村木南秋五郎俊澄 日下吉五郎義澄	550	542	107	89	16	
	?		22	1893	明治	廿六	癸巳	十月廿七日	?	大工 吉川竹松定行	548		90	72	16	
	本殿		23	1919	大正	八	己未	十二月十二日	葺換	大工加茂村 日下滿市	563	553	95	83	19	
	拝殿		24	1922	大正	十一	壬戌	一月一日	上葺	大工 江末太郎吉	555	546	90	75	16	右
	鳥居		25	1922	大正	十一	壬戌	十月十五日	上葺		454	445	79	63	12	左
	カシラ		26	1936	昭和	拾壹	丙子	拾月七日	上葺	大工 水井恵来茂平	452	447	77	63	20	左
本殿		27	1942	昭和	十七	壬午	四月十日	修葺	大工 恵来茂平	759		107	107	22		
本殿		28	1968	昭和	四十三	戊申	十月六日	修葺	大工 恵来利男	728		105	88	18		
本殿		29	1969	昭和	四十四	己酉	十一月吉日	屋根修理		727		102	90	17		
17 塩齋神社	舞台		1805	文化	二	乙丑	仲秋八月吉祥辰	再興	工匠棟梁朝日清藏永栄		635	623	127	113	22	左

4. おわりに

今回の調査において、神社建築では今までの調査で、那賀川流域の町村で多く見られた手先を四方八方に出す組物が多く確認できた。その中でも、春日造のものが2カ所で見られたのは特筆できる。これはこの地域の特徴的な大工技術が代々受け継がれ、広まっていったことを表しており、非常に興味深かった。今回調査できなかった神社においても確認される可能性はあり、今後の調査の必要性を感じた。また、那賀川流域では農村舞台も数多く残っており、今回の調査でも25社で確認できたが、その内半数が新しく建て替わっていた。寺院建築では、四国霊場の札所である太龍寺や平等寺など近世、近代の建物も多く確認できたが、市街地では戦後新しく建て替

わった寺院が多かった。

また、悉皆調査をする上で、神社や寺院の場所の特定に苦労をしたが、住民の方々のご協力を得て、多くの神社、寺院を調査することができました。この場を借りてお礼を申し上げます。

文献

- 阿南市史編さん委員会 (2001)：『阿南市史』阿南市
- 羽ノ浦町誌編さん委員会 (1995)：『羽ノ浦町誌』。羽ノ浦町
- 徳島県神社庁教化委員会 (1981)：『徳島県神社誌』徳島県神社庁。
- 奈良国立文化財研究所編 (1990)：『徳島県の近世社寺建築 (近世社寺建築緊急調査報告書)』。徳島県教育委員会。
- 阿波のお堂の風俗研究会 (1988)：『阿波のお堂』。徳島県出版文化協会。
- (社) 徳島県建築士会阿波のまちなみ研究会 (1997)：『阿波の社寺建築』阿波のまちなみ研究会。
- しゃくなげ会 (2000)：『徳島県寺院辞典 (中)』徳島県出版文化協会



図26 石積みの畳敷席 (大宮八幡神社)



図27 農村舞台 (福井の八幡神社)



図28 薬師堂 (新野)

Architecture of shrines and temples in Anan City, Tokushima, Japan.

KUROSAKI Hitoshi*, KITSUMOTO Miho, SAKAGUCHI Toshiji, SAKAMAKI Nobuyo, NAKANO Masahiro, MIYATA Yasunori, MORIKANE Saburo.

* 28-1 Gongen Minamihama Muya-cho, Naruto-shi Tokushima, 772-0003 JAPAN

Proceedings of Awagakkai, No. 60 (2015), pp. 113 - 124.